

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校第6学年の全児童、中学校第3学年の全生徒（悉皆調査）

3 教科に関する調査の内容

小学校：国語、算数

中学校：国語、数学、英語

4 調査日時

令和5年4月18日（火）

5 調査結果（平均正答数・平均正答率）

	小学校		中学校			
	国語	算数	国語	数学	英語	
					聞くこと 読むこと 書くこと	話すこと
昭島市	9.3/14問 67%	9.9/16問 62%	10.2/15問 68%	7.4/15問 50%	7.7/17問 45%	0.5/5問 10%
東京都	9.7/14問 69%	10.7/16問 67%	10.8/15問 72%	8.2/15問 54%	8.8/17問 52%	
全国	9.4/14問 67.2%	10.0/16問 62.5%	10.5/15問 69.8%	7.6/15問 51.0%	7.7/17問 45.6%	0.6/5問 12.4%

6 各教科に関する調査結果 (○：成果 ▲：課題)

(1) 小学校国語

【調査結果のポイント】

【話すこと・聞くこと】

▲目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることに課題がある。

(大問3の二)【正答率：市 64.0% < 国 70.2%】

【書くこと】

▲図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。

(大問1の二)【正答率：市 27.1% > 国 26.7%】

【読むこと】

○目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することはできている。

(大問2の一)【正答率：市 91.2% > 国 90.0%】

○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることはできている。

(大問2の二)【正答率：市 70.9% > 国 67.4%】

【指導改善のポイント】

【話すこと・聞くこと】

◎話を聞いて自分の考えをまとめる際には、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることが重要である。その際、話し手の考えと自分の考えの共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして、自分の考えをまとめるように指導する。

【書くこと】

◎必要に応じて、教師が、図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示することで、図表やグラフなどを用いると自分にとっても考えを深めやすく、相手にとってもよく理解できる文章になることを実感できるように指導する。

<クロス集計>

児童質問紙調査 49

「国語の授業で、書いた文章の感想や意見を学校の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見つけていますか」という質問に対する回答と、大問1の二の解答とのクロス集計

選択肢	正答率	誤答率	無回答率
当てはまる	30.9%	64.4%	4.7%
どちらかと言えば当てはまる	27.4%	63.3%	9.3%
どちらかと言えば当てはまらない	23.2%	64.9%	11.9%
当てはまらない	20.6%	65.1%	14.3%

★この質問に肯定的に答えた児童の方が、大問1の二を正答している割合が高い。このことから、書いた文章の感想や意見を学校の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見付けるなどの学習活動を充実させることが重要であると考えられる。

(2) 小学校算数

【調査結果のポイント】

【数と計算】

▲一の位が0の二つの2位数について、情報の計算をすることに課題がある。

(大問1(4))【正答率：市77.4% < 国80.8%】

○「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることはできている。

(大問4(2))【正答率：市78.2% > 国75.7%】

【図形】

▲高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。

(大問2(4))【正答率：市14.4% < 国20.8%】

○正方形の意味や性質について理解することはできている。

(大問2(2))【正答率：市88.1% > 国87.2%】

【変化と関係】

▲伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを記述することに課題がある。

(大問1(3))【正答率：市53.7% < 国55.5%】

○伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることはできている。

(大問1(2))【正答率：市89.2% > 国88.5%】

【データの活用】

▲示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを記述することに課題がある。

(大問4(3))【正答率：市52.3% < 国56.2%】

○「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることはできている。

(大問4(2))【正答率：市78.2% > 国75.7%】

【指導改善のポイント】

【数と計算】

◎一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算を確実にできるようにすることが重要である。指導に当たっては、例えば、 50×40 と 50×4 の関係を考える活動が考えられる。その際、 $50 \times 40 = (50 \times 4) \times 10$ で、 50×40 を 50×4 の10倍として捉えることができるように指導する。

【図形】

◎具体的な数値が示されていない場面において、問題を解決する際に必要な情報を主体的に見いだしたり、適当な数値を当てはめたりして考えることができるように指導する。

【変化と関係】

◎伴って変わる二つの数量が、比例の関係にあることを用いて、筋道を立てて考え、知りたい数量の大きさの求め方を説明できるように指導する。

【データの活用】

◎複数のグラフを組み合わせたグラフを読み取る力を身に付けさせるとともに、特徴や傾向を捉えたり考察したりしたことを、グラフのどの部分からそのように考えたのかを明らかにして、他者に分かるように伝えることができるように指導する。

(3) 中学校国語

【調査結果のポイント】

【言語の特徴や使い方に関する事項】

▲文節に即して漢字を正しく書くことに課題がある。

(大問3の二)【正答率：市 39.2% < 国 43.9%】

【我が国の言語文化に関する事項】

▲歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことに課題がある。

(大問4の一)【正答率：市 77.7% < 国 82.5%】

【書くこと】

▲読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることに課題がある。

(大問3の一)【正答率：市 53.6% < 国 54.3%】

【話すこと・聞くこと】

○聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることはできている。

(大問1の四)【正答率：市 82.6% > 国 82.5%】

【指導改善のポイント】

【言語の特徴や使い方に関する事項】

◎漢字の指導においては、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を讀んだり書いたりすることができるように指導する。また、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣とを養うことも大切である。その際、必要に応じて辞書を引くことを習慣付けることが有効である。さらに、タブレット端末を活用して文字を入力する際にも、漢字がもつ意味に留意して、適切に選択する力を養うように指導する。

【我が国の言語文化に関する事項】

◎古典の世界に親しむためには、古典の文章を繰り返し音読して、その独特のリズムに生徒自らが気付くことが重要である。その際、小学校での学習を踏まえるとともに、歴史的仮名遣いなど現代の口語とは異なる古文特有のきまりについて、教材に即して指導する。

【書くこと】

◎読み手の立場に立って、語句の用法や叙述の仕方などを確かめて文章を整えることで、述べている事柄の関係、例えば、原因・理由とその結果の関係等が明確になることを捉えられるように指導する。

<クロス集計>

都調査生徒調査6(4)

「国語の授業で、自分が書いた文章を読み返し、分かりやすい表現になるように書き直している」という質問に対する回答と、大問3の一の解答とのクロス集計

選択肢	正答率	誤答率	無回答率
当てはまる	64.5%	34.8%	0.7%
どちらかと言えば当てはまる	57.0%	42.0%	1.0%
どちらかと言えば当てはまらない	45.2%	52.5%	2.3%
当てはまらない	46.7%	53.3%	0.0%

★この質問に肯定的に答えた生徒の方が、大問3の一を正答している割合が高い。このことから、書いた文章を推敲し、読み手に取って分かりやすい表現にしていくよう指導する。

(4) 中学校数学

【調査結果のポイント】

【数と式】

▲自然数の意味を理解することに課題がある。

(大問1)【正答率：市 43.2% < 国 46.1%】

○数と整式の乗法の計算はできている。

(大問2)【正答率：市 81.5% > 国 80.5%】

【図形】

▲ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することに課題がある。

(大問9(1))【正答率：市 31.3% < 国 32.1%】

▲条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることに課題がある。

(大問9(2))【正答率：市 36.5% < 国 37.0%】

【関数】

▲反比例の意味を理解することに課題がある。

(大問4)【正答率：市 38.5% < 国 42.8%】

▲与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることに課題がある。

(大問8(1))【正答率：市 56.7% < 国 57.5%】

【データの活用】

▲四分位範囲の意味を理解することに課題がある。(大問7(1))【正答率：市 54.5% < 国 65.7%】

▲複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

(大問7(2))【正答率：市 30.6% < 国 33.6%】

【指導改善のポイント】

【数と式】

◎小学校算数科においては、整数を0と正の整数を合わせたものとして捉えていたことを振り返り、中学校数学科では、負の整数を加えて、整数を正の整数(自然数)、0、負の整数と捉え直し、整数の意味についての理解を深めることができるように指導する。

【図形】

◎事柄が成り立つことを証明することができるようにするためには、構想を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導することが大切である。2直線が平行であることの根拠となる事柄を捉え、その事柄を与えられた条件から導く過程を考えるといった構想を立てる活動を授業に取り入れる。

◎ある事柄の条件を変えた場合について考察する場面では、証明を振り返り、証明に用いた前提や根拠を整理するなどして、図形の性質を論理的に考察し表現することができるように指導する。

【関数】

◎反比例の意味を理解できるようにするために、反比例の特徴を表や式などと関連付けて捉えることができるように指導する。

◎数学を活用して様々な問題を解決できるようにするために、表、式、グラフのどれをどのように用いたかについて数学的に説明できる活動を充実させる。

【データの活用】

◎データの分布の傾向を読み取って判断し、その理由を箱ひげ図の箱の位置や四分位数などを用いて的確に説明できるように指導する。

(5) 中学校英語

【調査結果のポイント】

【聞くこと】

○情報を正確に聞き取ることはできている。 (大問1(2))【正答率：市70.1% > 国64.4%】

○日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることはできている。
(大問2【正答率：市66.2% > 国61.1%】)

【読むこと】

▲「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことに課題がある。
(大問5(2))【正答率：市59.4% < 国64.5%】

▲日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることに課題がある。
(大問6)【正答率：市34.1% < 国35.9%】

○文と文との関係を正確に読み取ることはできている。
(大問7(1))【正答率：市61.0% > 国59.8%】

【書くこと】

▲社会的な話題に関して読んだことについて、自分の考えとその理由を書くことに課題がある。
(大問8(2))【正答率：市17.7% < 国19.5%】

▲未来表現の肯定文を正確に書くことに課題がある。
(大問9(1)①)【正答率：市34.7% < 国40.4%】

【話すこと】

▲疑問文の特徴を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用することに課題がある。
(大問1(3))【正答率：市8.0% < 国13.4%】

▲社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことに課題がある。
(大問2)【正答率：市5.7% > 国4.2%】

【指導改善のポイント】

【読むこと】

◎言語の働きを理解するとともに、英文を読む際に、使用されている語彙や慣用表現、文法事項などを手掛かりに、事実を述べているか、考えを述べているかを確認するよう指導する。

◎日常的な話題に関して、できるだけ現実に近い場面を設定するとともに、文の一語一語の意味を全て理解する逐語的な読みから脱却し、必要な情報と不要な情報を整理しながら自分が必要とする情報を読み取る指導をする。

【書くこと】

◎読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解したことを基に、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて適切に表現するよう指導する。指導に当たっては、読む目的に応じて要点を捉えた上で、内容に対する感想や賛否、自分の考えなどを話したり書いたりして表現するなど、領域を統合した言語活動を行うことが大切である。その際、なぜそのような考えたのかという理由を考えさせたり、生徒の発話に対して教師が理由を尋ねたりする取組を工夫する。

<クロス集計>

生徒質問紙調査 70

「1、2年生のときに受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか」という質問に対する回答と、大問8（2）の解答とのクロス集計

選択肢	正答率	誤答率	無回答率
当てはまる	23.1%	53.0%	23.9%
どちらかと言えば 当てはまる	16.2%	50.5%	33.3%
どちらかと言えば 当てはまらない	11.5%	42.3%	46.2%
当てはまらない	9.4%	34.4%	56.3%

★この質問に肯定的に答えた生徒の方が、大問8（2）を正答している割合が高く、無回答率も低い。
このことから、自分の考えや気持ちを英語で書く言語活動を継続的・計画的に取り入れることが重要
であると考えられる。

【話すこと】

- ◎Yes-No 疑問文や or を含む選択疑問文、Wh-疑問文などについて、語順、動詞の形の変化、イントネーションなどを意識するよう教師が声かけをすることが大切である。また、疑問文を実際のコミュニケーションにおいて正しく活用できるまでには時間を要するため、疑問文を用いて話したり書いたりすることを、3年間を通じて継続的に指導する。
- ◎聞いて得た知識や情報のメモを基に、内容を口頭で要約して伝えたり、自分が一番印象に残った内容や興味をもった情報を伝えたりする活動や、聞いたことについてなぜそのように考えたのか、感じたのか、簡単な理由や根拠、例示などを伝えたり質問したりする活動を授業に取り入れる。